

ローザンヌ(SUI)、2021年1月

2021年を見据えて

FIG 新体操技術委員会からの最新情報

FIG 新体操技術委員会は、世界的なパンデミックによって2020年初頭にFIG大会が中止された後、世界的な新体操コミュニティを更新し、従事させるためにこの機会を利用します。

技術委員会のメンバーは、前例のない課題にもかかわらずトレーニング活動を継続し、刺激を生み出すために新しい革新的なオンラインプラットフォームに取り組む方法を見つけた選手やコーチに深い敬意を表します。

新体操審判員はまた、積極的に従事し続ける方法も見つけました；FIG 新体操技術委員会は、明確化のためにこの1年を通して技術委員会へ審判員によって提出された質問や例に感謝しています。

新体操では毎年、コーチと選手による新しいレベルの創造性と創意工夫が見られます；世界的なパンデミックの中でさえ、世界的な新体操コミュニティの忍耐力を物語り、発展し続けている。

2020年には、FIG 新体操技術委員会のメンバーの指示の下で開催されたFIG競技会は1回しかありませんでした。TC会長が主催した3月のアフリカ選手権です。一方、他のFIGイベントは—主催者によるふさわしい努力と大きな勝利を伴って—オンライン大会と同様に行われましたが、2020年の競技会の審判は、常に競技規則とニュースレターを正しく反映しませんでした。FIG 新体操技術委員会は、審判員とコーチにこの事実に関心を払い、2021年に開催されるオリンピックの最終的な割り当てであるワールドカップシリーズと大陸予選2021の開始に備えて、審判員とコーチの両方が正確に理解するための明確化と注意を促すニュースレターを読むよう求めています。

新体操の規律の仕事に心から感謝し、新たな展望を持って、FIG 新体操技術委員会

総則

1. 選手が手具を伴ってラインを超えた時、最初にラインを超えた後、手具がフロア面外にとどまっている間に、もう一度床に触れた場合、減点は何ですか？

減点は、ラインを超えている際中、手具が床に触れる回数に関係なく、1回与えられる。

実施技術

2. 選手が停止する前に、音楽が終了した場合の減点について：

実施技術審判員は、音楽が終了したときに採点を停止しますか？この場合線審はどうしますか？

与えられた例：

<https://www.youtube.com/watch?v=jMhelUdPN-k>

例では、次の欠点を示す：

- 音楽は終了し、同時に喪失する — 最初の例のフープ
- 音楽は終了し、直後に喪失する — 2番目のボールの例
- 音楽は終了し、選手はまだ動いている（喪失なし） — 3番目のボールの例

⇒難度審判員：音楽が終了したときに評価を停止する（例：音楽終了後のD要素はカウントしない）

⇒実施芸術：音楽終了後の動きは減点：0.50

⇒実施技術：演技の終了時に音楽と同時に喪失がある場合：減点1.00；
他のすべての場合、審判員は音楽が終了したときに評価を停止する。

**演技の終了時、選手は手具を失い、音楽が終了した。
手具は動き続け、フロアから出た。減点は何点ですか？**

⇒演技の終了時に手具を失う（手具との接触なし）に対する減点：1.00

⇒演技の終了後と音楽終了後に手具が演技面より出た場合は、減点なし（線審）。

身体難度

実施技術

ジャンプ / リープ

3. リープ難度でのkip（シーソー）なしと、小、中、大のkip（シーソー）の違いを定義してください。

新体操の“kip”とは、前脚と後ろ脚（および、場合によっては、胴）に対して同時に最大の大きさが見えないことを意味する。ほとんどのリープでは、前脚が後ろ脚の前にその位置に到達するのは正常である。これだけでは減点をする理由にはならない。ただし、前脚の位置は、後ろ脚が最大の位置になるまで維持する必要がある。前脚のポジションが下がって後ろ脚がその位置に到達するまでの時間がkipの程度（小／中／大）である。

4. 鹿を伴うリープにおけるkip（シーソー）の度合いを評価する場合：前脚（閉じた鹿）を最大に曲げるタイミング、または後ろ脚が最大の高さのタイミングのみを評価する必要がありますか？

はい、そうすべきである。曲げた前脚は、後ろ脚も最大位置になるまで維持する必要がある。kip（シーソー）はタイミングと関係があることを明確にすることができる：その形のフォームは一つの形を同時に示さない。
誤差は、身体の部位の最終的な位置と関係がある。

5. 同じリープ難度に対して2つの減点をいれることができますか？：
“小／中／大の誤差を伴う不正確な形”と“小／中／大のシーソーの動きを伴う形”

はい、審判員は“（小、中、大）誤差を伴う不正確な形”（# 2.3.1と関連する各身体の位置に対して）と“（小、中、大）シーソーの動きを伴う形”を減点する。

6. 選手は、次の技術的欠点を伴うリープを実施：
a. “不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”
b. “重い着地”

実施技術審判員は**0.30**（後ろに傾く着地）+**0.10**（重い着地）の減点をする必要がありますか？

ほとんどの場合、“不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”ジャンプは前脚での重い着地を伴う；したがって、ジャンプごとに1回だけの着地の減点を与える必要がある：
もし着地の最後において後ろに傾く場合**0.30**；もし重い着地のみ（最後に後ろに傾かない場合）は**0.10**。

バランス

7. 選手が手具要素を伴ってバランスに要求された形を実施したが、静止位置がなかった場合、バランスの難度は有効ですか？

#9.1.2によると：“形が明確で手具要素を正確に実施したが静止位置が不十分な場合、バランス難度は有効となるが実施技術減点を伴う：“形が最低1秒間保持されていない” **0.30**減点。実施技術審判員は、この減点を正しく一貫して適用する必要がある。

8. 選手は後屈を伴ったバランスを実施。難度の形は1秒の固定が見えなかった。バランスの終わりに選手は「軸」を失ったため、選手は大きく前に踏み出した。審判員はバランスを失い移動して余分な動きを入れる**0.30**の減点をするが、形が最低1秒間保持されていない減点も与えますか？

バランスの難度は有効。

実施技術減点：

- ⇒ **0.30** “バランスを失う:移動して余分な動きを入れる”
⇒ **0.30** “形が最低1秒間保持されていない”

9. 選手は、リボンの螺旋を伴ってパンシェバランスを実施、その間にリボンに小さな結び目があった；結び目を伴ったバランス**BD**は有効になりますか？

演技の中断のないリボンの結び目は、**0.30**の技術的欠点である。それは小さなまたは大きな結び目であるかどうかは関係ない。バランス**BD**は# 2.2.3 に従って無効である。

10. 選手はフェッテバランスの2番目の要素を回転しながら実施した：
このバランスは有効ですか？

このバランスは、難度が基礎的特徴に反して実施されたため無効である：

形ははっきりと明確であること：すべての関連する身体の部位が同じ瞬間に正しいポジションであること（#9.1.2）。

各バランスの形ははっきりとしたアクセント（明確な位置）を伴って見せること（#9.1.12）。

ローテーション

11. ローテーション難度でのスライドとホップの違いを定義してもらえますか？

《スライド》は、つま先が床から上がることなくカーペットに沿って動く；
《ホップ》は、足がカーペットから離れるときである。

12.選手がスライドを伴って、そしてスライド中、胴と／または脚の位置が揺れ始めた状態でローテーション難度を実施した場合—スライドによる移動は許可されるが、“移動なしでバランスを失う”減点が必要ですか？（その場合“移動を伴うバランスの失う”は、回転の終了時のみ使用されます）

スライド自体はミスではない。回転中にスライドを伴って実施される難度は、実施減点なしで有効。

スライドを伴った回転中に、胴体と／または脚の位置が揺れ始めた場合は“移動なしでバランスを失う”の減点を与える必要がある。

身体難度の基本回転中に胴と／または脚の位置が固定されていない場合 — 減点は**0.30**点
“基本回転中に形が固定されず保持されていない”。

ローテーション難度が大きなステップを伴って（回転の終了時）で終了した場合 — 減点**0.30**点
“バランスを失う：移動して余分な動きを入れる”。

また、ローテーション難度の正しい形からの誤差（小／中／大）にも注意を払う必要があることを忘れてはいけない。身体難度の有効性と実施減点はそれによって決まる。

**13.選手がBD中に《バランスを失う》という実施をした後、他の減点がありますか？
最終的に何か減点を与えますか？**

例 1：選手がパンシェ回転を正しい形で開始する。基本回転の後、選手はコントロールを失う：選手の胴は非対称になり、開脚位置に小さな誤差があり、膝が曲がり、ボールを掴んだ。回転は大きな移動を伴い終了した*。審判員は移動を伴いバランスを失う**0.30**の減点をするが、非対称、大きさ、不正確な部位、ボールを掴んだ減点もありますか？

身体難度中の全てのミスは減点されなければならない：

- パンシェローテーション中の胴の非対称位置：0.30
- 小さな誤差（開脚位置がない）を伴う形：0.10
- 動作中の1部位の不正確な保持（膝が曲がっている）：0.10
- バランスを失う：移動して余分な動きを入れる（回転は大きな移動を伴い終了）：0.30
- 不正確な操作（ボールを掴む）：0.10

*選手がBDから次の動きに移るためのコントロールされたステップは、軸の喪失による大きな移動を伴い終了する回転とは異なる；コントロールされて終了した場合、減点なし。

14.選手が、喪失または非常に不正確な軌道のどちらかで手具を追う必要がある時：

バランスを失い転ぶ／支える、曲がった膝、肩のあがりなど、といった他の減点を与えますか？

<https://www.youtube.com/watch?v=zOuHF-wJc0>

実施技術審判員は、次の場合に減点を与える必要がある：

⇒不正確な軌道または手具の喪失（両方ではない）

⇒手具を追いかけた後、転倒を含むバランスを失うに該当する場合；

減点はバランスの喪失の程度に適用される（移動または転倒を伴って）

⇒不正確な部位による減点（複数の減点）なし（ミスの中の減点はない）

⇒線審は、ラインを超える手具または選手に対して減点を適用する

15.採点規則では、“軌道の変更を伴う身体との不注意による接触”という手具操作の特別な減点がなくなりました。手具が不注意により身体に触れた場合（例えば、フープを持ち替える際、ロープの一部、巻きつけなしのリボンの端）、審判員は小さなエラーに対して一般原則0.10を適用すべきですか？

<https://www.youtube.com/watch?v=BX5IOTNffll>

はい：不正確な操作に対しそのつど減点0.10

*最後の例は、不正確な操作ではない：ロープのくぐり抜け：ロープに足（脚）が引っかかる、減点0.30

16.選手が、踵が床についたが前足の周りで回転した時、審判員はルルベと認めるべきですか？

審判員にとって、何が“低いルルベ”で何が“ルルベでない”かを理解するために多くの例を研究することは重要である。支持脚のつま先（ルルベ）で実施されるローテーション難度をピボットと呼んでいる。ピボットは、高いルルベ位置（床からの踵の最大可能な上昇位置）で実施されなければならない。

低いルルベとは踵が回転中に床からわずかに上がり、床に触れないことを意味する。ピボットが低いルルベ位置で実施された場合、実施減点を伴って難度は有効である：0.10（不正確な身体の一部位）

ピボット中に（ルルベで実施された場合）、選手が回転の一部で踵をつき（“ルルベでない”）、実施された回転は基本回転を欠いた場合、難度は無効である、そして実施減点はルルベで実施したローテーション中の一部で踵をついた0.10の減点が適用される。

最初の基本回転後の追加の回転が中断された場合は（踵をつく）、中断前にすでに実施されている回転のみが有効になる。実施減点は同じで0.10。回転が中断される方法に関わらず：踵が床に触れるか、または踵／足全体に体重が完全にかかっている。

17.形の変更を伴うピボットで：最初の形が完了したが（基本回転が実施される）、2番目の形が完了していない（基本回転が実施されない）：

実施技術審判員は、基本回転中に固定されていない／保持されていない形に減点を適用しますか？

選手が2つ目の形を始めたが基本回転中に形が保持されなかった場合、実施技術の減点は適用され、2つ目の形は無効である。

18.支持脚を徐々に曲げていく／伸ばすピボットで：最高位置と最低位置をどれくらい見せなければなりませんか？そして選手はどのくらい深く実施しなければなりませんか？選手が十分に深く実施できなかった場合、審判員は徐々に曲げていく／伸ばしていくことなしでのピボットとするべきですか？

この種類のピボットは、1つの形からの移行－“支持脚を伸脚”からほかの形－“支持脚を曲げる（または／とその逆）への移行はゆっくりと徐々に変更しなければならず、選手は最初から最後までルルベにて実施しなければならない。

最高位置と最低位置は少しの間見せなければならないが、回転全部でなくても良い。

ピボットの最初の形は回転全体の価値を決定するが、選手が最低位置まで曲げない場合（またはその逆）、最高位置の価値を与えることはできない。

審判員は、最高位置と最低位置の両方を示されたとき、この種類のピボットに対して認める。

19.脚の水平位置を伴ったフェットピボットの場合：審判員は最初のターン（平行脚から始まる）を準備として見るべきか、それとも最初の0.10点の回転としてカウントするべきですか？

脚を水平に伸ばしたフェットは、繰り返しのターンのシリーズで実施、早いテンポで1つの場所で行われる。各要素は、形での回転＋開いた位置がある。

パッセまたは脚が前または横の水平位置を伴う最初のフェットは最初の回転として価値がある。フェットローテーションのカウントは、プリエと押し出しのあとすぐに始めなければならない。

これは両方の形に適用される：パッセ位置、脚の前後左右の水平位置。

20.踵をつけ、脚が横に開かれたとき、フェットピボットの終わりに手具技術要素を実行するだけで十分ですか？またはBDの回転部分の間に技術要素を見せる必要がありますか？

選手は、脚が前または横の水平位置を伴い開いた位置での回転中に手具技術要素を実施することができるが、一度脚が閉じ始めるとできない。

21. リングを伴うパンシェピボット中、1回転目にリング位置に小さい誤差があり、2回転目でリング位置に中くらいの誤差があった：どのような技術的欠点になりますか？

実施審判員は、1つのBD中、同じ身体の部位の誤差（最も高い欠点）に対して1回減点を与える必要がある。この場合：リングを伴ったパンシェピボットに中くらいの誤差の減点0.30点を1回与える。

手具技術要素 / ベース

22. “身体のあらゆる部位上での手具の滑らし” “小さな投げ／受け” の違いを明らかにしてください。

滑らし：手具を身体との接触を伴い脚／腕／胴に沿って下に滑らす。

小さな投げ／受け：手具は身体に近いが、手具を受ける前に自由に落ちる（身体との接触なし）。

23. 1つのベースを伴ってBDを実施：中くらい／大きな投げ。BDと投げが正しく実施された。BDの後、選手は手具を受けなかった—手具の受けで喪失した。BDは有効ですか？

はい、BDは有効である：有効なBDのすべての必須条件が満たされている：BD中に0.30の実施減点とBD中の手具の喪失がない。中くらい／大きな投げのベースは、ベースの“投げ” から独立したベースである。

24. 1つのベースを伴ってBDを実施：中くらい／大きな投げ。BDは正しく実施されたが、投げは不正確な軌道を伴って実施された。BDの後、選手は不正確な軌道で手具を喪失しないために移動して対応した。BDは有効ですか？

無効です。#2.2.3：BDは、2.2.3に記載されている技術的欠点なしで実施した場合に有効である。0.30またはそれ以上の手具の技術的欠点（BD中に喪失を防ぐため試みた不正確な軌道を含む）

25. 小さな投げ／突き／滑らしの後、ボールを空中で直接取り戻す必要がありますか、それともボールを意図的に落とし、床から跳ね返った後、取り戻すことができますか？

ベースが《突き》である場合、必須条件が異なる場合がある、ボールの突きの後は、取り戻さなければならない。ベースが《滑らし》である場合、手具は表面から滑り落ち、床に受動的に跳ね返る可能性がある。

26. 投げの高さ：特に投げの際中に体が動いている場合の、投げの高さを明確にしてください。

解説：

Large throw: 大きな投げ
Two or more gymnast heights
選手の身長の2人分またはそれ以上

Medium throw: 中ぐらいの投げ
One to two gymnast heights
選手の身長の1~2人分

Small throw: 小さな投げ
Near the body
身体の近く



Throw with the leg 膝立ち位置で足投げ
in a kneeling position:

Large throw:
Two or more gymnast heights

Medium throw:
One to two gymnast heights

Small throw:
Near the body



《逆さま位置》の投げ
Throw in «upside down» position:

Large throw:
Two or more gymnast heights


Medium throw:
One to two gymnast heights

Small throw:
Near the body



27. “大きな”と“小さな”転がし（ボール、フープ）についていくつかの基準を教えてくださいませんか？

解説：

	Small Roll	Large Roll
	A minimum of one segment of the body must be passed over Examples of a body segment: hand to shoulder; shoulder to shoulder; foot to knee, etc.	A minimum of two large segments of the body must be passed over Example: from the right hand to the left hand over the body; trunk + legs; arm + back, etc.

	小さな転がし 最低身体の1部位を超えなければならない 身体の部位の例：手から肩、肩から肩、足から膝、など。	大きな転がし 最低でも身体の大きな2部位を超えなければならない 例：身体の上の右手から左手；胴+脚；腕+背中、など。
--	---	--

28. 大きな転がし（ボール、フープ）が小さい技術的欠点を伴い有効となる許容される小さなバウンドの度合いと、ベースが無効（中断／転がっていない）となるバウンドを伴った転がしのいくつかの基準を教えてくださいませんか？

⇒手具が正確に転がっている時の小さなバウンドは技術的欠点を伴って有効である
⇒ある部位から別の部位へのバウンドがあり、正確な転がしではない場合、
不正確／無効なベース（+技術的欠点）

29. “ブーメラン”の投げを実施するのに選手がリボンの端を《保持する》方法を明確にできますか？

“ブーメラン”の投げ：空中に／床上にスティックを放す（投げ）；リボンの端を片手（両手）または身体他の部位にて保持する、床からのスティックのリバウンドを伴うまたは伴わない（空中での“ブーメラン”）引き戻しに続いて、スティックを受ける。スティックの放しは手によってまたは身体によってリボンの布を滑らす（手から布を放さずに）、またはすぐに引き戻す前にリボンを完全に放すことが含まれる。リボンの引き戻し（放しが無い）のみの要素は、“ブーメラン”の定義を満たしていない。

30. 技術要素“身体異なる部位によって保持されているスティックで身体の周りにてリボンを動かす”：図形はどのような形になるべきでしょうか？たとえば、有効となるためにリボンの布で、1つ以上の円を描くべきですか？

はい、確かに。この技術要素中にリボンの布で1つ以上の円を描くことで有効となる。

31. 手具技術要素の実施中にリボンに結び目ができる。リボンの結びが出来たとき演技をどのように判断するか説明してください。

4つの状況：

- 小さな結び目と演技の中断なくほどもく。
 - 実施技術減点：結び目のための0.30
- 結び目ができる、選手演技を中断し、結び目をほどもき、それから演技を続ける。
 - 実施技術減点：結び目のための0.50
- 結び目ができる、選手は手具が使用不可能と判断し、予備手具のリボンと交換する。
 - 実施技術減点：0.70 使用不可能な手具
- 結び目ができ、そして選手は結び目に気づかない、またはほどもかない、いずれにせよ、結び目を伴って演技を続ける。
 - D1－D2：結びを伴っての要素は無効
 - D3－D4：正しく実施された場合、結び目を伴ってもRのみ有効
 - EA：通常どおり評価する（結び目を解くために停止した場合、リズムの中断を含む）
 - ET：結び目に対する減点、結び目に対する減点と、全ての欠点（図形、または軌道などのその後の影響を含む）を採点し続ける。

手具難度（AD）

32. リボンのスティックを挟むことは、ベースの操作／不安定なバランスとしてADは認められますか？このベースはADとして使用できないことを意味するか、または回転を伴うBD中に手以外でベースが実施されたときにADを与えるということですか？

リボンのスティックを明確に“挟んだ”ポジションは“不安定なバランス”とはみなされない、そのためADのベースとしては無効。“挟んで”いない他の“不安定なバランス”ポジションは、定義を満たしている限り“不安定なバランス”のベースとして使用することができる。

33. もしリボンのスティックが足、膝、他の身体部位によって握られている場合、これはそれ自体が不安定か、リボンの図形に関係なくベースが有効か（リボンはロールアップ、巻き付ける、不規則な図形になる可能性がある）、またはリボンのスティックのこの種類の操作は、身体の周りでの図形または大きな円は必要ですか？

このスティックのポジションは不安定なバランスとしては無効だが、独創的な技術要素を作り出す目的で身体の部位で握られた場合（中くらいまたは大きな円、身体の周りの図形など）技術要素の条件を満たしている限り実施できる。

34.途中で不安定なバランスによる停止を伴う“大きな2部位の転がし”ベースは有効ですか？

いいえ、途中で不安定なバランスによる停止がある場合、ベースの大きな転がし（“大きな2部位の転がし”）は無効である。

35.ボールが身体の部位で（手以外、視野外）で保持され、それから受動的な突きをするために落とすことはADとして十分か、または基準は突き（押すまたは取り戻す）に能動的な実施があるべきですか？

実際の“突き”は手または身体の他の部分によって能動的に実施すべき－受動的に突きとなる手具を落とすことは能動的な突きではない。

36.持ち替えの開始と終了は完全に別々の身体部位で行う必要がありますか、または身体の一部が要素全体に関与していることは許容されますか？

例：フープで首と左脚の間の保持から始め、首と右足の間で終わる。

このベースに対して2つの有効な基準が実施されている限り両方の例は“持ち替えのベース”として有効。

37.ひとつの手具のベースが他の手具のベースにダイレクトに続き、両方とも同じ身体の動きで実施された場合、これは1つまたは2つのどちらのADになりますか？例：回転中に手以外視野外で受け+同じ回転中に手以外視野外でボールの長い転がし。ボールは“ブロッキング”技術で受け、その後転がしが開始される。それは“転がしながらの受け”ではない。

この例では、3つの基準（必要な条件は2つのみ）があり、第3の基準－回転－は、最初の独立したベース（受け）と、2番目のベース（転がし）の両方で共有される。なぜなら、転がしは受けの後に明確に実施したから。

これは1つのADである－2つの異なるベースが回転などの同じ基準を使用する場合、両方のベースに共通する基準が3番目の基準であっても、1つのADである。

38. 身体の動きが異なっている限り、2つのADで同じ手具操作は使用できますか？

例：

- 腕を背面にした螺旋、前方転回で1回、別のところで足の《打ち》を伴う前方転回。
- 片手でボールをキャッチ、初めに通常の後方転回で、次に最後に脚をそろえる後方転回で。

有効となるためには、2つのADで手具操作を同じにできない：

同じという意味は、ベースと基準が全く同じ実施である。なぜなら“同じ”基準(同じシンボル)を“異なる”方法で実行することができるため(例：基準“回転”は採点規則の定義に従って“異なる”方法で実行することができる)、そのような実施は“異なる”。この例では、“違う”ADとして価値を与える。なぜなら回転要素が“異なる”ため。

39. ADまたはR。2つのプレアクロバット要素が次々と実施される場合(前方転回で投げ、後方転回で受け)：この実施が中断/小さなステップ/半回転が原因でRとして有効でない場合—審判員は2つのADと考えることができますか?審判員は、その意図を評価するか、選手が実際に何を行っているかを解釈すべきですか?

審判員は、選手が何をしようとしているのかを解釈することはできない；審判員はその瞬間に何が実施されたかしか判断できない。審判員がミスに伴うRとして難度を認識した場合(基本回転中の中断、ステップ、半回転)、Rは無効である；それは2つのADとして考えることもできない。空中にある間の回転(Rに要求される)を含む基本回転と認識できない、そして投げと受けが2つの有効な基準で実施されたなら、ADの価値を与えることができる。

40. 要素の開始と/または終了は膝/背中をついた位置であるが、ADそのものは手支持のみで実施された場合：これは“床上”ですか?

例：

- 前転の逆立ち中に脚で投げる。
- 膝立ちから、手支持で脚によってボールを突き、膝立ちに戻る。

これは床上ではない：床上とは身体または膝で支えること#6.4。

41. ある程度の時間を要する手具要素（例えば、長い転がし／螺旋）：手具要素が回転とどの程度重ならなければなりませんか？手具操作の短い瞬間が回転の短い瞬間に関連しているだけで十分ですか？

例：選手は、前方転回中に脚の下でベースの螺旋を実施する：

有効になるためには、4つの輪が回転中に脚の下になければならない、すなわち、それらが有効であるために同時に実施しなければならない。例：選手は床上にて回転中に視野外でベースの螺旋を実施する。選手は2つの輪が視野外で、他の2つの輪が回転中ではなく、床上と視野外を伴いながら回転を実施するときに4つの輪がなければならぬ。審判員は、ベースが基準と一緒に実施されているかを見なければならぬ。

*ベースの後に実施される基準は無効となる。

回転を伴ったダイナミック要素（R）

42. Rの一部ではない回転に対して“回転中の受け”という基準を与えることができますか？（実施ミスのためまたは自発的に）

例：2 シェネーランニングー前転中の身体の背面でのリバウンド

Rの値：

⇒R2、投げ返し、手以外、視野外 = 0.50？

または

⇒R2、投げ返し、手以外、視野外、回転中 = 0.60？

Rの価値は、回転数と基準の実施によって決定される：最後の回転が中断後または手具の受けの後に実施された場合、この回転とこの回転に属する基準（おそらく高さや軸）は無効である。最後の回転が正しく実施されない場合でも、受けで正しく実施されたその他の基準は有効である。

回答：R2の値：R2、投げ返し、手以外、視野外 = 0.50が正解。

43. 後転または後方のフィッシュフロップ（胴は曲がる／抱え込む、そして視線は手具に向かっている）の最初の段階で受けが正しく実施されたとき、これは後方の回転であるため、すべての場合に《視野外での受け》+《回転中の受け》を与えるべきですか？または、タイミングと実際の視野コンタクトはそれぞれのケースに従うべきですか？

- ある後転中の受けは、これらの基準を伴わず有効である可能性がある。
- また、ある後転中の受けは、これらの基準を含めて有効である可能性がある。

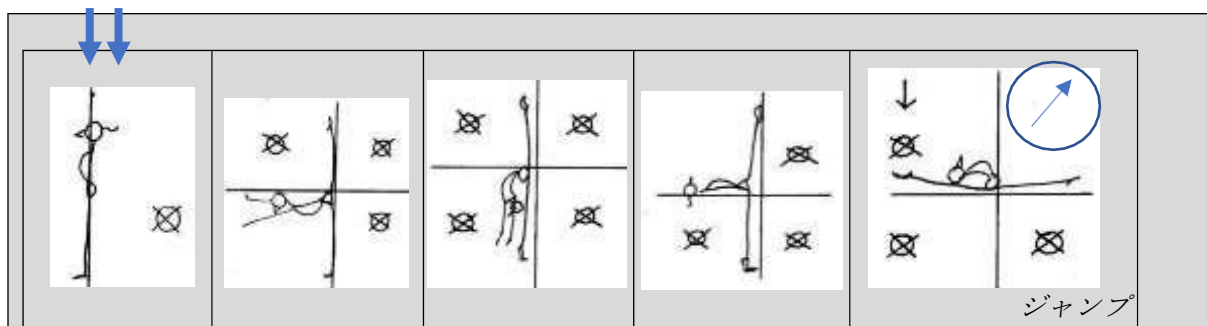
<https://youtu.be/ZCXupb7Etqs>

審判員は、後転中の受けがこれらの基準を伴わずとも有効となりうるそれぞれのケースにおいて、タイミングと実際の視野コンタクトに従うべきである。

視野外受けの場合：後屈の位置または後方回転要素：

⇒受けの腕は垂直位置を過ぎていなければならない：身体の前または、身体の側面、または頭の真上の腕で行われた要素は、胴が後屈または回転していても視野外ではない（下図参照）；頭の上で腕を伸ばして受けるための範囲“視野外”に入るには、腕は垂直線を越えなければならない（下図）。

⇒胴の後屈を伴うジャンプ／リープ中に大きく前に投げるジャンプの場合：腕が体の前にあるため、この投げは視野外ではない（下記参照）。



44. 投げは空中で自由であること、“ブーメラン”では、リボンの端は常に身体と接触しています。《投げ返し》は投げ／“ブーメラン”を意味し、Rの投げ返しとして“ブーメラン”はまだ認められますか？

はい、正しい。

45. リボンで投げ返しを伴うRを実施したとき、選手がリボンの端を保持／受け、すぐにスティックを受けないことがあります。Rが有効になるには、スティックをいつ正確に取り戻さなければなりませんか？

ースティックは、投げ返し／引き戻しの直後に取り戻さなければならないですか？

ーまたは、最終的にスティックを取り戻してRを終える前に、リボンの布を使用して他の要素を実施することが許可されていますか？（ADの投げ、またはくぐり抜け）。

Rを有効にするには、リボンのスティックを投げ返し／引き戻しの直後に取り戻さなければならない。“ブーメラン”は、手または身体の他の部位によってスティックの放しと取り戻し（受け）が要求されている；受けなかった場合、これは次の投げの準備にしかない。したがって、受けのための身体の動きを伴う投げ返しは許容されるが、投げ返しから要素（AD）の途中に続くことは認められない。

46. 滝状を伴ったRで回転の数を評価するとき：1つのRとするために、どちらかのクラブの投げの下で実施されたすべての正しい連続した回転を合計しますか？それとも、1本の投げの下で実施された回転だけをカウントしますか？

<https://youtu.be/ApJhJnVFQ6g>

まず：滝状が有効になるためには、両方のクラブが投げの時点で同時に空中にあるべきである；一度回転が開始されたら、空中にある間に回転を完了させなければならない。これは R2 である。

47. 2番目の回転の最初の段階の間に受けを伴うRを認めるには、回転はうまく接続されなければならない（追加のステップはなく、中断がない）、そして2番目の回転は受けの前に始まらなければなりません。いくつかの追加の解説を加えると役に立つ可能性があります。

a) 胴は受けの瞬間に前方に傾いて、受けの瞬間に片足を床から持ち上げる必要がありますか？
（前方転回／側転／もぐり回転）

はい、そのような姿勢は2番目の回転が開始されたことを示すためである。

b) 受ける腕は、手具に向かって止まり伸ばすことができますか？

はい、手具を受けるときに腕を伸ばすことができる（少し止まりながら）。腕を伸ばして手具を受けることは正しい技術である。

c) 選手は、停止しない限り、回転速度を遅くすることはできますか？

はい、可能である、Rを行う場合には一定の回転速度は必要ない。

48.最初の回転が立って終わり、選手が膝から2番目の回転を開始したいとき：どのように移行を行うのでしょうか？足／膝でのステップは何歩ですか？

立位回転から肘／胸部の回転への移行は、膝立ち位置で止まらずに、中断することなくダイレクトでなければならない。次の回転を開始するために開いた脚は、たとえ高さの変更が含まれていても、許容される“ステップ”である。

49.水平回転と後方転回に接続する場合：何歩のステップが許可されますか？

2番目の回転に向けて回転する脚を開く“ステップ”は許可される（歩くステップではない）。

a) 前方転回はシェネ（両足が床上）から次に移るステップから始めるべきですか？

はい；シェネでは両足が一緒である；選手は、次のローテーションをすぐに始める脚に踏み入れなければならない；これは許容される‘ステップ’であり、その上に追加されるものではない。

b) 選手は足を変えるために余分なステップを行い、《選手にとって都合の良い側》で前方転回を行うことができますか？

“余分な”ステップを行うことはできない、すぐに次の回転を行うための脚への直接の“ステップ”だけである。

ダンスステップコンビネーション (S)

50.ダンスステップコンビネーション (S) では、プレアクロバット要素、もぐり回転を実施することはできません。それはBDのもぐり回転という意味です。イリュージョン（自由に脚を曲げる）の形の変更を行うことは認められますか？

ダンスステップコンビネーション中のもぐり回転の形の変更は、プレアクロバット要素の変更と同様、認められない。このような変更は、8秒の前または後で行うことができる。

51.選手は8秒間の要件を満たすダンスステップコンビネーションを実施しますが、最後の2秒間は次の難度の準備のようなステップを実施しました。審判員は、このようなダンスステップコンビネーションをカウントすべきですか？

最後の2つのステップが準備ステップである場合、単純な準備ステップではなく、コンビネーションの残りの部分と調和した動きにキャラクターを含める必要がある。完全な8秒間の定義を満たしていないため、このような場合のステップは無効である。

52. 選手がダンスステップコンビネーションを実施し、10秒正しく実施した後、手具を喪失した場合、審判員はこれをどのように評価しますか？

選手がすべての必須条件を満たし8秒を完了し、その後、手具を喪失した場合、選手は定義を満たしていればD審判員は価値を与え、実施審判員は喪失に減点を与える。

53. 各Sは、最低1つの基礎手具技術要素を伴い実施しなければなりません。どのような場合に、基礎手具技術要素がカウントされず、無効となりますか？

基礎手具技術要素は、次の場合に無効である。

- 定義に従って実施されていない手具操作
- 手具の喪失を含む手具操作の際中の0.30またはそれ以上の技術的欠点

ダンスステップコンビネーションは上記のいずれかまたは両方を伴って基礎手具技術要素を実施した場合、無効である。

54. ダンスステップコンビネーションを16秒間実施する場合、これは1つまたは2つのダンスステップコンビネーションですか？

各ダンスステップコンビネーションは、必須条件を満たす必要がある；16秒以内に各必須条件が2回ある場合、これは2つのダンスステップコンビネーションになる。たとえば、1つの基礎手具技術要素のみだった場合、これは1つの長いダンスステップコンビネーションである。

55. 片手でのボールの受けの基礎技術の必須条件：選手が片手で受け、すぐにもう一方の手で支えた場合、この受けは基礎技術の必須条件として有効ですか？

はい、この手具操作は、基礎技術の必須条件として技術的欠点0.10を伴い有効である。

実施芸術

56. 選手が明確に音楽の前に演技を終えた場合、どのような減点を適用すべきですか？

減点0.50は、演技終了時に音楽のリズムと動きのハーモニーがないとして適用されるべきである。

57.選手が行う投げのほとんどが同じ技術である場合、演技の実施芸術に対する減点が必要ですか？

減点0.20は、手具要素の技術の多様性の欠如のために適用されるべきである。

58.選手が音楽のダイナミックな変化を尊重していないとはどういう意味ですか？

0.30の減点を適用する必要がありますか？

選手は、音楽の変化に従って、身体と手具の動きの双方で、エネルギー、パワー、スピード、そして強さの対比によってダイナミックな変化を示す必要がある。音楽にダイナミックな変化がない場合は、選手が自らスピード、スタイルまたは身体と／または手具の動きによって変化を創りあげること。演技には、少なくとも1つの明確なダイナミック変化が必要である；そうでない場合、0.30の減点がある。

団体

身体難度

59.団体の選手3名（過半数）が最低1秒間バランスを保持していない場合、BDは有効ですか？実施技術の減点は何点ですか？

BDは有効である。実施技術減点 0.30 （一括の減点）

60.団体演技で各身体グループからの最低1つの難度が必要です。これらの難度は非常に素早い連続でサブグループでの実施ができますか？

サブグループでこれらの難度を実施することはできない。すべての5名の選手によって同時に、または非常に素早い連続で行われるべきである。

そのBDが同時に、または非常に素早い連続で実施されない場合、減点0.30がD1-D2審判員によって与えられる。

61.ダンスステップコンビネーション中、選手がボールを突き、パートナーがこの突きを受け取った場合、これは基礎技術要素として有効ですか？

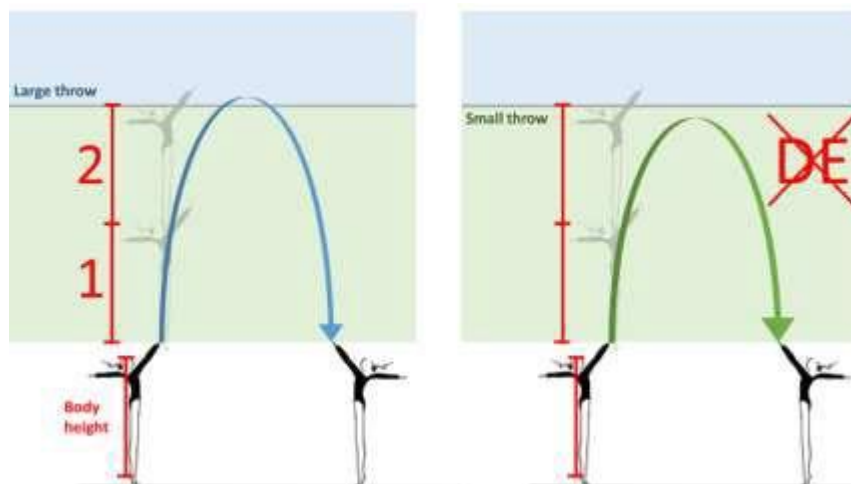
いいえ、各選手は完全／有効な基礎技術要素を実施しなければならない。

交換 (ED/DE) 難度

62. EDは、選手間において手具の交換が大きな投げ（“ブーメラン”でなく）によって行われる場合にのみ有効です。大きな投げは、必須の高さ（選手の最低2人分の高さ）または選手間の最低6mの距離によって決定されます。6mの距離は、投げる瞬間と／または受ける瞬間の選手間の距離でなければならない。公式の例と追加の解説を見ると役に立つかもしれません。

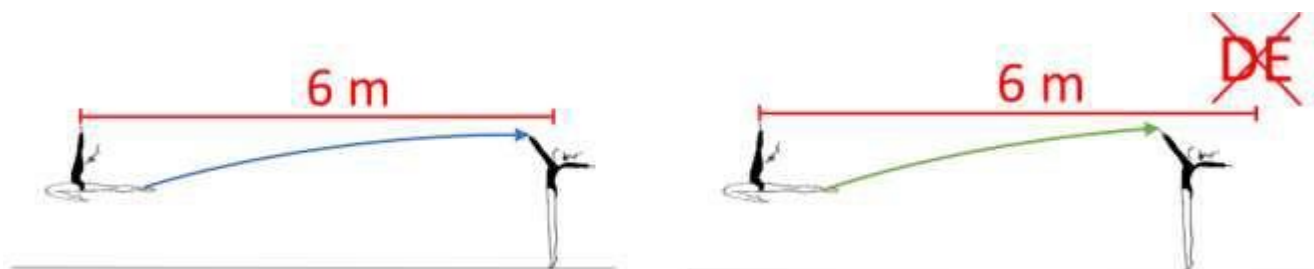
例 1 と 解説

立位での手具の大きな投げを伴うED（選手の最低2人分の高さ）



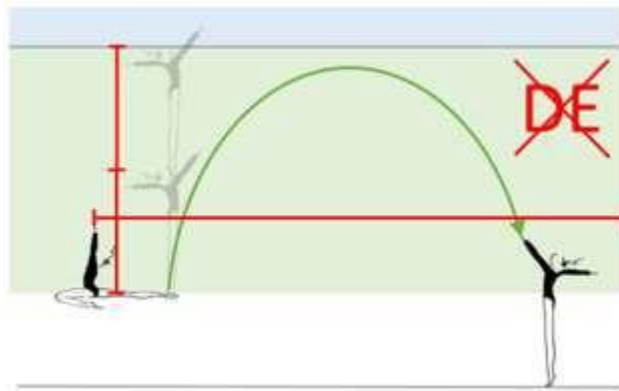
例 2 と 解説

手具の距離を伴う投げ（選手間の最低6mの距離）



例 3 と 解説

無効なED（高さがない、距離がない）



63. 5名の選手が距離6mを伴い低い高さ（選手の最低2人分の高さがなく）で手具を投げたが、1つのサブグループの2名の選手は6m未満だった場合、EDは有効ですか？

いいえ、EDは無効である。投げが大きくない場合、他の有効な基準がない限り、5名の選手全員が6mの距離で実施するべきである。

64. 選手は、手具の投げの不正確な軌道を伴ってEDを実施します：1名の選手が1歩で手具を受け、別の選手は3歩で受けた。EDは有効ですか？減点は何点ですか？

⇒ EDは有効である（#2.2.5）

⇒実施技術減点は0.50である（最も遠い距離の手具を取り戻すための歩数の合計に基づく）

65. 同じBDを、交換難度中の基準として2回目に実施できますか？


はい、それは繰り返しではない；交換でのBD（価値0.10のみ）は基準に過ぎず、2回目の実施が可能である。

66. 選手は、床からのリバウンドを伴った受けでEDを実施し、側転中に前腕で手具を止めます。このEDは有効ですか？


はい、EDは有効である（#2.6.3.EDの追加基準：異なる身体の部位／床上からのダイレクトなリバウンド）。

67. 交換難度の基準として、何度の回転をする必要がありますか？

採点規則に180°と指定されていない限り、すべての回転では最低360°が必要。

68. 1名の選手は、手以外、視野外で連係  を実施します。他の2名の選手は、主要動作を実施しません；この2名の選手は手以外、視野外で手具の受けのみ行います。この連係の価値は何点ですか？

この連係の価値=0.40

0.20  + 0.10の手以外で手具を投げる + 0.10主要動作を実施する選手による視野外の手具の投げ。

69. ジャンプまたは回転要素の際中に異なる方向に同時に2つまたはそれ以上の手具を脚の下から投げる：“視野外”の基準はこの投げに有効ですか？

はい、このタイプの投げは“視野外”の基準に対して有効である。

70. 連係のCRとCRRに必要な投げの高さを明確にしてください。

これらの種類の連係では、中くらいまたは大きな投げが必要である。これらの連係は、個人Rと同じ原則に従う（小さな投げで実施はできない）。

71. CR/CRR/CRRRの開始の投げとして身体の一部でのリバウンドを使用したとき、そのリバウンドは投げとして必要な高さがなければ価値を与えませんか？

はい、上記の#70のように、投げとしての役割があるから。

72. CR/CRR/CRRRの受けとして身体の一部でリバウンドを使用したとき、リバウンドはどのような高さでも良いですか？


はい、それが受けであればどのような高さでも良い；この突き返しは連係の受けとして有効。

73. 連係において、フープの突き返しを受けと同時に次の連係の投げとして使用することは可能ですか？


1回の突き返しは、投げの高さが十分である限り（中くらいまたは大きいが必要）、受けと次の投げの両方として可能。

74. 連係CRまたはCRRが小さな投げで実行された場合：これらの連係は有効ですか？価値を与えない場合、実施技術の減点はありますか？

小さい投げで実施された連係CRまたはCRRは無効である。実施技術の減点はない。

75. 連係CCと  の投げに必要な高さはどれくらいですか？

連係 CC には小さいまたは中くらいの投げが必要。

連係  にはまたは中くらいまたは大きな投げが必要。

76. 連係での大きな投げの高さを定義するために6mの距離は使用されますか？

いいえ、連係での投げの高さを定義するために距離は使用されない。6mの距離は、交換難度で有効な投げの定義にのみ使用される。

77. 結び目を伴った連係は有効ですか？

連係の他の必須条件が満たされていれば、連係は有効である。

78. 連係CRR2の実施技術の減点を明確にしてください。

a) 同じ要素で連続して2つの手具を喪失した；CRR2の2つの受けは素早く連続して行われた

b) 異なる要素で2つの手具を喪失したが、1つの喪失は他の喪失の影響である

減点は1回だけですか？

選手が同時に手具を喪失していないので減点は毎回適用される。


79. 団体で連係 CRR を実施する場合、最初の連係が完了する前に開始された新しい連係を評価することは可能ですか？

身体回転のダイナミック要素を伴う連係（#6.4）は、主要動作を実施する選手によって定義される；従って、主要動作が完了するまで（主要動作を実施する選手による手具の受け）、新しい連係は無効である。

80. 団体の連係の実施で、1つのサブグループがCRを実施し、次のサブグループがCRRを実施し、それら有効な方法で手具によって関連づけられている場合、CRとCRRの両方を評価できますか？

いいえ、最も低い価値が与えられる、そしてニュースレター#1、団体 D3-D4、#4で説明されている。

実施芸術





81. 演技の連係のほとんどが複数投げと組み合わせられている場合、減点を適用する必要がありますか？

各団体演技には、様々な形での連係があるべきである；異なる連係の種類の間でバランスを必要とする。1つの種類の連係が構成の中で多用される場合；実施芸術の減点は 0.20。

82. 異なる共同作業の種類の間でバランスが必要です。1つ種類の共同作業が欠落した場合、どのような減点が適用されますか？

1つの種類の共同作業が欠落している場合、特定の減点はなく、バランスを取るための方向性にすぎない。1つの種類の共同作業を構成の中で乱用した場合は、0.20の減点のみである。

追加の注意：団体の関係について、受けながら回転をした場合の関係には価値を与えないので注意して下さい。

Examples		WE ARE GYMNASTICS! GYMNASTICS.SPORT	
CR/CRR			valid
CR/CRR			valid
CR/CRR			not valid
CR/CRR			valid